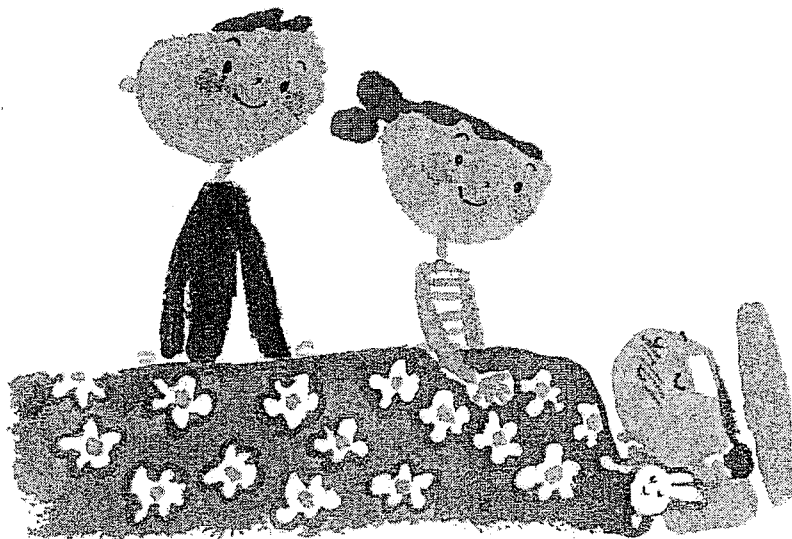


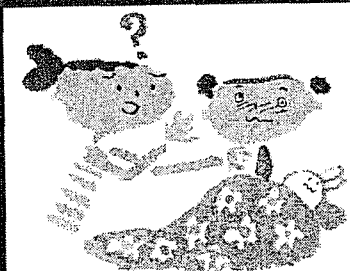
発熱したお子さんを見守るポイント

こんな症状を認めたら もう一度受診しましょう



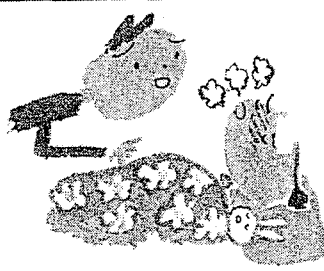
新型インフルエンザであっても、ほとんどのお子さんが季節性インフルエンザと同様に、3日から5日間発熱が続いた後に自然に治ります。しかし、まれに急性脳症、心筋炎、肺炎を合併したり、脱水などを起こすことがあります。そこで、自宅で療養するときには、お子さんをひとりにせず、次に示すような症状に気をつけて、定期的に状態を見守るようにしましょう。

意識障害



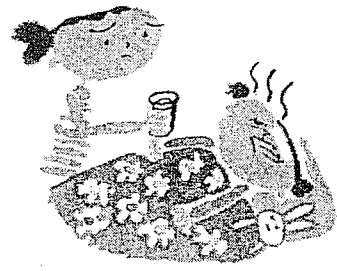
視線が合わない。呼びかけに答えない

呼吸困難



呼吸がはやくて、息苦しそう

脱水症



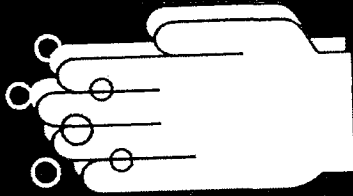
水分がとれず、おしっこが出ない

厚生労働省 日本小児科学会

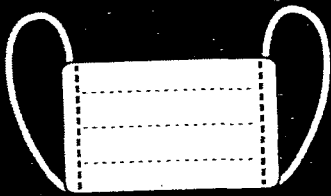
●さらに詳しい情報については、ホームページをご参照ください。

厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou04/index.html>
日本小児科学会 <http://www.jpeds.or.jp/influenza-j.html>

新型インフルエンザの 感染拡大は 一人ひとりが防ぐ！



感染を予防するために
こまめな手洗い・うがいを
徹底しましょう



感染をひろげないために
咳エチケットを守ってください

※咳エチケットとは：人に向かって咳やくしゃみをしないこと。とっさのくしゃみでは周囲の人から顔をそらし、用意があればティッシュなどで口・鼻をおおいます。咳などが出づけるときはマスクの着用を。



感染をひろげないために
かかったあとは外出自粛を
してください



重症化リスクの高い方は早期受診！

- ・持病のある方々のなかには、治療の経過や管理の状況により、インフルエンザに感染すると重症化するリスクが高いと判断される方がいます。（※下欄参照）
- ・予防（こまめな手洗いとうがい、人ごみを避けること）を心がけてください。
- ・また突然の高熱や咳、のどの痛みなどの症状が出たら、早期に受診してください。

※インフルエンザに感染すると重症化するリスクが高いと判断される方

- 慢性呼吸器疾患（ぜんそく・COPDなど）
- 慢性心疾患
- 糖尿病などの代謝性疾患
- 腎機能障害
- ステロイド内服などによる免疫機能不全
- 妊婦
- 乳幼児
- 高齢者

新型インフルエンザ ワクチンは

順次、生産されていくため

重症化リスク の 高い 人

から順に接種を行います。

優先接種の対象者

11月よりスタートし以下の順で接種を行います。

妊婦さん

幼児

(1歳～未就学)

保護者

(1歳未満児等の)

中学生
高校生

基礎疾患
を有する方々

小学生
(1～3年生)

小学生
(4～6年生)

高齢者

※本資料はインフルエンザワクチンに関する基礎知識などの情報については、お住まいの市区町村に問い合わせください。
インフルエンザワクチンには副作用が生じる場合があります。接種する前に必ず接種説明書をお読みください。

ワクチンには効果とリスクがあります。

インフルエンザワクチンには効果とリスクがあります。接種する前に必ず接種説明書をお読みください。効果は接種後数週間から数ヶ月にわたって持続しますが、必ずしも感染を防ぐことができません。また、接種後数日から数週間程度、接種部位に痛みや発熱などの副作用が生じる場合があります。

当院にて新型インフルエンザ
ワクチン接種が受けられます

お問い合わせ先

●●病院 電話相談窓口(診療時間 ●●:●●~●●:●●)Tel. 00-0000-0000
●●病院 ホームページ <http://www.XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX>